

評価項目 1 (学力に関すること)

重点目標		基礎学力を十分に身に付けさせるために知的好奇心を高めるとともに、「できる授業」「わかる授業」を確実に実施する。 教育環境を整備し、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、豊かな心の育成を目指し、「心を磨く」「心を育む」美化活動を展開する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生徒の知的好奇心が高まる	各教科で生徒の知的好奇心が高まるように授業に取り組んでいる。生徒からの積極的な質問や意見が多いと感じる。	B	知的好奇心の高まりをさらに求め、特に、理科と社会科についての学力の伸長に励む。 各教科の授業では、毎時の「ねらい」についての提示を確実に実践する。毎時の授業で「何を学ぶか」「今何を学んでいるのか」「今日何を学んだのか」を明確にできる授業やもっと知りたくなる授業を展開する。
	教科指導はもとより、すべての教育活動に明確な「ねらい」を設定する。	明確な「目的」「ねらい」を伝えることで、生徒の学習内容の把握が高まる教科が増えてきている。しかしながら、理科と社会科での区の学力調査の低値が回復できていない。	B	
②	生徒は授業が良くわかり楽しく受けている。	生徒が良くわかる授業を心掛けている。授業に興味を持って取り組む生徒が多い。	B	教員は楽しい授業と共に、分かりやすい授業展開を工夫する。 各授業で、適時性があり、生徒間での適切な対話の時間を確保する。デジタル教科書の有効利用法を研究し、より興味関心を高めた授業を展開する。何よりもチャイム着席等の授業規律の確立を徹底し、授業に向かうことへの意識化を促進する。 学力調査の誤答分析を確実に進める。
	教員は、生徒が主体的で対話的に深い学びのできる授業構築に励む。	調べ学習を取り入れている。また、多くの授業でグループ活動を取り入れ、主体的で対話的な学びが展開できる指導法を模索しながら、教え合うことを奨励している。	B	
	チャイム着席の徹底や学習準備の指導をととして、学習・授業規律を更に確立する。	教員は授業規律の確立に努め、ほとんどの生徒が自らチャイム着席を実施している。しかし、一部の生徒には教員の指導が必要である。	B	
③	生徒が心豊かに生活している。	生徒が心豊かな学校生活を送れるような学習環境の整備に注意している。	B	教員は、生徒共に教室の清掃を徹底し、教室の学習環境を整備することで生徒の心の安定を図る。 美化委員会の取組を全生徒に認識させ、何のための美化活動なのかを生徒に共有させる。また、教員も生徒と共に清掃活動に励み、学習環境の整備に尽力する。各教室のロッカーの整理整頓に心がけさせる。ふき掃除月間を設けるなど、「己に向き合う時間」のスローガンの下、「東海中ふき掃除」の重要性を生徒と共に再認識する。 ※「ふき掃除」とは、清掃を目的とせず、廊下等をひたすらふきあげることを通じて自分と向き合う時間を確保するもの。
	校舎内外の美化に励み、特に生徒の学びの場である教室や廊下の美化を徹底する。	美化委員を中心に、週1の黒板クリーナーの掃除、月1のリサイクルペーパーの整理、モップの交換を行っている。しかし、学校全体として清掃が徹底されているレベルではない。	B	
	拭き掃除を始めとする心を磨く清掃活動を展開する。	事前指導・事後指導と併せて、生徒が自分の心に正対する時間になっている。しかし、毎学期の取組には至らなかった。	C	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

		<p>これからの日本を支えることのできる「良き市民」の育成を目指す具体的な教育課程の構築を推進し、本校を選択してくる生徒自身が、地元意識をもち、地域の期待に応え、地域に貢献できる東海中学校の確立を目指させる。</p> <p>○規律と秩序ある生活態度を堅持しつつ、すべての学校行事に明確な「ねらい」を設定して、自主・自律の心を養う。</p> <p>○規律と秩序ある生活態度を堅持する。</p> <p>○すべての学校行事に明確な「ねらい」を設定して、自主・自律の心を養う。</p>		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	規律と秩序ある生活態度を堅持している。	適切な生活態度の持続と先をイメージした継続的指導を行っている。規律は概ね守られていると感じる。	A	<p>自主・自立を目指し、すべての学校行事に具体的かつ明確な「ねらい」の設定付けを徹底する。</p> <p>今後も、具体的かつ明確な「ねらい」を設定し、達成するための手立てを生徒に考えさせるために、わかりやすく学校行事の意味を伝える。</p>
	すべての学校行事に明確な「ねらい」を設定して、自主・自律の心を養う。	ねらいを設定し、達成するための手立てを生徒に考えさせている。わかりやすく学校行事の意味を伝えることで、多くの生徒が理解し、行動している。	A	
②	生徒自ら「15歳のあるべき姿」を追求している。	学校の中で、日々自分の将来に向けて自己研鑽に努めている。今あるべき姿を生徒が外れてしまったときにはその都度の指導を行っている。	B	<p>日常生活で態度や礼儀について必要性を伝え、わきまえた言動を実践できる教育活動を展開する。</p> <p>すべての教育活動で「時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉遣いの実践」を意識した教育活動の展開を徹底する。</p> <p>互恵性を踏まえたボランティア活動を拡大するとともに、東海グループとしての活動を具体化し、一貫教育実践校としての機能を強化する。</p>
	すべての教育活動で「時と場をわきまえた態度、行動、礼儀、言葉遣いの実践」を意識した教育活動を展開する。	言動をわかまえる教育活動を展開し、日常生活で態度や礼儀について言及している。普段の学校生活や修学旅行等の学校行事において特に意識した教育活動を行っている。	A	
	ボランティア活動を拡大するとともに、東海グループとしての活動を具体化し、一貫教育実践校としての機能を強化する。	クリーンレンジャーの価値を具体的に共有できるよう、児童会、生徒会役員会の内容を精査し実施した。各校、多くの児童生徒が参加し、有意義なクリーンレンジャーが展開された。もう少し地域からの活動に対する認知度を高めたい。	B	
③	規律と秩序ある生活態度を堅持している。	落ち着いて生活できており、規律と秩序が保たれている。また、その堅持を目指して指導を継続している。	B	<p>落ち着いた学校生活を、一層、堅持する。</p> <p>チャイム着席については一部の生徒ではあるが教員が指導を継続する。また、教員もチャイム着席への認識を再確認する。</p> <p>「挨拶はするもので、求めるものではない」ことを積極的に伝えていく。また、教員自ら挨拶を行うことで、生徒の挨拶の励行を強化する。</p>
	チャイム着席の徹底や学習準備の指導をとおして、学習・授業規律を更に確立する。(再掲)	教員は授業規律の確立に努め、おおむねの生徒が自らチャイム着席を実施している。しかし、一部の生徒には教員の指導が必要である。(再掲)	B	
	挨拶が響きわたる学校づくりのために、挨拶の励行を強化する。	教員自ら挨拶を行うことで、生徒の挨拶の励行に努めている。挨拶をする学年としない学年があるが、生活委員による朝の挨拶運動はとてもよい活動となっている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標		「確かな学力と豊かな心」は「健康と体力」が支えていることを強く意識させ、「健康と体力」について生徒自ら向上させようとする学習内容や学習環境を構築する。 スーパーアクティブスクールの実践を意図的・計画的に積み上げ、生徒の主体的な体力づくりの一助とする。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「健康と体力」について考え、生徒が自ら「健康と体力」を向上させようとしている。	SASの学年での取り組みなど、生徒は積極的に取り組んでいる。身近にできるストレッチ等を実践している。	A	SASの研究推進は健康の維持増進と共に、協働することの楽しさを理解させるものとなったため、研究推進は終了した今後も、その良さの継続を図る。 朝の運動実践を定期的に設定するなど、協働することへの喜びを継続して与える。また、週末のワンミニッツエクササイズは継続する。
	運動の合理的実践を通して生涯体育の重要性を理解させていく。	体育授業はもとより、SASの活動等を通し、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を育てている。発表会では、具体的な成果が発信でき、高い評価を得た。	A	
②	運動の合理的実践を通して生涯体育の重要性を理解している。	体育授業はもとより、SASの活動等を通し、生涯にわたって運動に親しむ姿勢を育てている。	A	研究推進は終了したが、その良さの継続を図る。 効果的な運動実践とは何か、SASで獲得した体育科での効果的な体づくり運動の在り方とは何かを今後も継続して追求する。 週末を活用して、家庭へのワンミニッツエクササイズの提供をとおして家庭での運動実践につなげ、家庭を巻き込んだ運動実践の継続を図る。
	毎回の保健体育の時間に、必ず筋カトレニングの指導内容を入れ、筋力を高める。	体育の補強に馬跳び、柔軟、ピブス振りを取り入れ、自己の運動課題に応じた種目に取り組むことができるよう指導している。	A	
	運動会や秋の区連合体育大会に向け、スポーツトライアル等に工夫を加えて活用しながら体力向上強化月間として位置付ける。	週末を活用して、家庭へのワンミニッツエクササイズの提供をとおして家庭での運動実践につなげている。スポーツトライアルの取組は不十分であった。	B	
③	生徒一人一人のオリンピック・パラリンピックについての意識が高まっている。	校内の展示・掲示などに注意を払っている。ビーチバレーなどの体験を通じて興味を持ち始めている。	B	「4×4」を強く意識させながらオリンピック・パラリンピック教育を展開する。 体育の授業や市民科の学習以外での読本の活用を促す。また関心をより一層高めるための講演会を計画する。パラリンピアンが提唱する「発想の転換をすれば障害者の可能性は無限に広がる。可能性に目を向け、障害者に自信をもたせ、インクルーシブに目を向ければ社会変革が引き起こされる」という概念を定着させる。
	東京都配布のオリンピック・パラリンピック読本を活用した教育を充実させる。	体育理論の単元において、都や区のオリンピック読本を活用しながら授業を行うとともに、市民科で活用している。一方で、オリ・パラ読本を活用した教育は充実していない。	B	
	様々な競技の特性を活用して、生徒の健康と体力の向上に努める。	体育授業において、各競技特性を理解し、運動に親しむ姿勢を育てている。毎週末にワンミニッツトレーニングを実践中である。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 (いじめの防止の取組に関すること)

重点目標		全校生徒一人一人に関する情報を全教職員が常に共有するとともに、生徒一人一人に対する観察眼をしっかりと身に付け、いじめは絶対に起こらないよう努める。また、市民科や各教科等の全教育活動を通じた心の教育を充実させるとともに、思いやりのあふれる各学級・学年の経営に努める。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生徒が自らの心を戒め、生徒会を中心に「いじめ0運動」を展開している。	ポスターや標語等を作成し、生徒会が主体となる「いじめ撲滅」の取り組みなど頑張っている。	A	いじめ「0」を継続する。 教員は、関わる人が「その行為はいじめであると認知すれば、それはいじめである」との認識を様々な場面で生徒に発信する。 これからも心に働きかけるような言葉がけや指導に努めている。
	市民科や各教科等の全教育活動を通じた心の教育を充実させる。	心に働きかけるような言葉がけや指導に努めている。また、やさしい人になれるよう、授業内外で生徒に話をし、いじめの事案は発生していない。	A	
②	生徒会が作成した「いじめ根絶宣言」が生徒に強く浸透され、つつがなく遂行されている。	いじめはいけないという気持ちはあると感じるが、根絶宣言は完全に生徒には浸透していない。	B	生徒会は効果的な「いじめ根絶宣言」を提示し、生徒に強く浸透させ、いじめ「0」がつつがなく遂行される。 5. 11. 1月のアンケートの実施や、気になる生徒への個別のヒアリングを実践する。その他、教員はアンテナを高くし、多くの観察や対話を通して、生徒同士のトラブルに気を配り、トラブルを未然に防いでいく。 (SNS東海中ルールの改定実施)
	生徒会朝礼で、昨年度提示された「宣言」を毎回紹介し、いじめ撲滅意識を共有する。	生徒会朝礼では様々な伝達事項が多くあり、宣言を毎回、紹介することができない実情がある。年に1度の生徒会での発表に留まっている。	C	
	アンケートを1学期に1回実施し、いじめのもとになる生徒同士のトラブルを早めに見つけて、未然防止に努める。	アンケートの実施や、気になる生徒への個別のヒアリングを実施している。その他、多くの観察や対話を通して、生徒同士のトラブルに気を配り、トラブルを未然に防いでいる。	A	
③	思いやりのあふれる各学級・学年の経営がなされている。	各学級共に際立った問題もなく、ほとんどの生徒にとり居心地の悪い場ではないと思う。笑顔にあふれる学級が多い。	B	生徒が安心できる学級環境を提供する。 OJTの機能を強く意識し、組織としての教員間の連携を強化する。 変化を見逃さないようにするために、一人一人の生徒をよく観察できる情報共有の場を設置する。 毎朝の打ち合わせ時や職員連絡会で生徒情報を共有し、単独で問題を抱え込むことのないように体制をつくることも含め、常に情報共有しながら生徒理解に努める。
	OJTの機能を強く意識し、組織としての教員間の連携を強化する。	若手教員は、先輩教師の指導を見たり、アドバイスを受けることで、自らの指導力向上に努めている。職員の和がなくて組織強化はできないが、「組織とは何か」もっと意識する必要がある。	B	
	変化を見逃さないようにするために、一人一人の生徒をよく観察できる情報共有の場を設置する。	常に情報共有し、生徒理解に努めている。毎朝の打ち合わせ時や職員連絡会で生徒情報を共有している。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (学校独自の特色ある教育活動)

重点目標		<p>○すべての教育活動に具体的な目標を設定し、「時と場をわきまえた、態度、行動、礼儀言葉遣いの実践」を励行し、卒業時まで誰からも認められる本校生徒の「15歳のあるべき姿」を確立する。</p> <p>○「確かな学力と豊かな心」は「健康と体力」が支えていることを強く意識させ、「健康と体力」に対し、生徒が自ら向上させようとする学習内容や学習環境を構築する。</p>		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	生徒主体の学校行事が運営されている。	教員の指導のもと、生徒が主で運営されている。各学校行事では、それぞれの実行委員が活躍するなど生徒は積極的である。生徒が主体的に活動できるような状況を整えていると思う。	A	<p>参加することに留まらず、参画することの重要性を伝え、生徒が生き生きとした主体性のある学校行事を運営していくよう支援する。</p> <p>生徒会や実行委員会等が、運動会や音楽祭等に対し、生徒同士で、主体的で能動的な運営をしているとの達成感や充実感を味わえる方法や、そのための教員の適切な支援の在り方を模索する。</p>
	・生徒会、実行委員会による運動会、音楽祭等が主体的な運営方法を模索させる。	生徒が自主的に動けるような事前準備を心がけている。運動会や音楽祭等、すべての学校行事では、生徒の実行委員が中心となった主体的な運営がなされた。	A	
②	ボランティア活動精神が発揮され、ポンプ隊として地域の期待に応えようとしている。	祭礼や地域行事を盛り上げようという意欲は高いと感じる。ポンプ隊はこれからの活動となる。	C	<p>ボランティア活動がやや形骸化されてきた今だからこそボランティア活動精神が発揮され、ポンプ隊として地域の期待に応えようとする生徒を育成する。</p> <p>目標値である生徒の地域祭の参加4回70名以上、地域行事参加4回100名以上を達成する。そのため、生徒会朝礼や学級活動等でボランティアの意味や価値の周知を行い、ボランティア活動の活性化を図っていく。</p>
	・地域祭の参加4回70名以上。 ・地域行事参加4回100名以上。	生徒会朝礼や学級活動等で周知を行い、ボランティア活動の活性化を図っている。しかし、数値目標はなかなか達成できずにいる。	B	
	・ポンプ隊練習を強化する。	助けられる側ではなく助ける側であることを伝えて、ポンプ隊を組織したが、意欲の高い生徒とそうでない生徒がいることから、全校的な気運の高揚とまでは至っていない。	C	
③	スーパーアクティブスクールの指定校として生徒の体力が向上している。	研究・実践のもとに、体力の向上をめざしている。体力は向上しているとは感じられないが、週に1回はランニング等の運動は当たり前にするという習慣は身に付いている。	A	<p>SASの研究推進は健康の維持増進の機会であったと共に、協働することの楽しさを理解させるものとなった。研究推進は終了したが、良さの継続を図る。</p> <p>朝の運動実践を定期的に設定するなど、協働することへの喜び、人と関わることへの楽しさを継続して与える。また、週末のワンミニッツエクササイズは継続する。(再掲)。</p>
	・朝のステップアップ時の運動を確実に実施する。	現在進行形で、学年の教員も参加し、精力的に取り組んでいて、確実な実施を見ている。	A	
	・筋力を高めるための毎回の体育の時間の効果的な筋カトレーニングを導入する。	直接的な体力向上には至らないものの、体育の補強に馬跳び、柔軟、ビブス投げを取り入れ、自己の運動課題に応じた種目に取り組むことができ、体育授業における効果的な筋カトレーニングの定着を見ている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成